

子どもの本と文化を、子どもの未来のために—

平成28年度

事業報告

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

平成28年度 事業報告

平成28年度は、新体制のもとで本格的に各種の事業を実施してきました。特に、外部助成金が得られた大きな2事業について新たに取り組みました。

一つは、子どもゆめ基金（教材開発）を得て、子どもが楽しみながらマンガのしくみを知ったり、お気に入りのマンガを探したりできるウェブサイト「マンガのひみつ大冒険！」を開発・公開しました。また、文化庁の文化芸術振興費補助金を得て、大正期～昭和前期に発行された貴重な雑誌『少年少女譚海』の保存・公開のためのデジタル化事業に取り組みました。

このため、28年度の予算規模は、収入で前年度の約1.9倍、支出で1.6倍と過去最大の規模に膨らみ、業務量においても大幅に増大いたしました。この推進のためには、当年度から専門員の雇用について非常勤から常勤に替えたことが寄与したところです。

一方では、「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」に専門員がいない運営がなされていることに、当財団として大きな懸念を抱くところではありますが、「国際児童文学館」が所期の目的であります、貴重な資料を収集・保存・活用し、円滑に事業を実施できますよう、大阪府および中央図書館と連携・協力を図るとともに、受託しております寄贈資料の受入れ業務に務めたところであります。

平成28年度決算における単年度収支は、3百万円弱の赤字となり、前年度に比し約2百万円赤字が減少し、新体制移行後の7年間では最も少ない赤字額になりました。

これは主に、上記の2事業が採択され、補助金が大幅に増加したこと、国際グリム賞が選考年であったことによるものでありますが、将来的にできるだけ安定的な運営ができるよう努力してまいります。

また、「公益目的支出計画」の進捗状況につきましては、計画の収支差額 約1090万円に対し、決算額は約4百万円となりました。初年度（平成25年度）からの4期累計での達成率は47%になっています。公益目的支出額では、補助事業の大幅増により、計画 約19百万円に対し決算額は約26百万円となり、4期累計の達成率でも計画額を上回る103%になりました。

個々の事業については、平成28年度事業計画にもとづき以下に報告します。

○役員会等の開催状況

1. 評議員会

| 回 | 開催年月日 | 議 事 内 容 |
|-----|---------|--|
| 第1回 | 28.5.10 | (1) 評議員の選任について |
| 第2回 | 28.6.21 | (1) 平成27年度収支決算について (2) 平成27年度事業報告について (報告) (3) 平成28年度補正予算について (報告) |
| 第3回 | 29.3.23 | (1) 平成29年度事業計画について (報告) (2) 平成29年度収支予算について (報告) (3) 平成28年度事業の執行状況について (報告) |

2. 理事会

| 回 | 開催年月日 | 議 事 内 容 |
|-----|---------|---|
| 第1回 | 28.4.26 | (1) 平成28年度第1回評議員会の招集について |
| 第2回 | 28.6.21 | (1) 平成27年度事業報告について (2) 平成27年度収支決算について (3) 平成28年度補正予算について |
| 第3回 | 29.3.23 | (1) 平成29年度事業計画について (2) 平成29年度収支予算について (3) 平成28年度事業の執行状況について |

[公益事業の部]

I 講座、講演会等を通じた子どもの本の普及活動

下記講座等を、主催事業または講師派遣により実施し、ボランティアとの協働をすすめることにより、子どもの読書活動を推進した。

1. 大人向け講座・講演会

(1) 指導者養成のための講座

① 子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員等への本の選び方や読書活動のありように関する研修、講座のための講師を派遣した。

・実施回数：29回

・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等

・対象：教員（2回）、文庫・読書活動ボランティアグループ（11回）、
司書・学校司書（7回）

② 「気になる本を読む会」

「学校司書研修会」とともに、大阪府域の学校司書と毎月テーマを決めて読書会等を行う研究会を実施した。（9回）

(2) 保護者や子どもの本に関心のある人へのアプローチ

国際フォーラム「いま、アメリカの子どもの本を考える」の実施

・開催日：平成28年5月22日（日）

・場 所：大阪府立中央図書館

・内 容：児童文学研究者のフォーラム

・講 師：レナード・マーカス（児童文学者、ニューヨーク大学非常勤講師）
三宅興子（当財団特別顧問、梅花女子大学名誉教授）

・対 象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等

・参加者：85人

*主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*賛助企業：サントリーホールディングス株式会社、

パナソニック株式会社、ムサシ・アイ・テクノ株式会社、

株式会社富士通システムズ・アプリケーション&サポート

*子どもゆめ基金助成活動

(3) 子どもの本の魅力や子どもと本を共有することの大切さを伝える講座のための講師や審査員を派遣した。 27回

子どもの本を楽しむ会（11回）

保護者向き児童文学・絵本講座・フォーラム（10回）

第12回大阪こども「本の帯創作コンクール」

第26回箕面手づくり紙芝居コンクール審査員（箕面市）

平成28年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）

第35回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府府民文化部）

大阪いずみ市民生活協同組合「コープのえほんでスマイル」専門委員会 他

2. 本と子どもを結ぶ活動

- (1) 学校等で物語体験ワークショップや絵本作り等を計 11 件実施した。
小学生（3 件）、少年自然の家他公共施設（7 件）
中韓日子ども童話交流事業 2016（於：中国・北京）

- (2) 児童養護施設でのおはなし会の実施
大阪府域の児童養護施設でおはなし会（6 回）と人形劇（3 回）を開催した。
（計 9 回）
*一般財団法人 高津成和会助成事業

- (3) 図書館等でのおはなし会の実施
 - ①大阪府立中央図書館こども資料室でおはなし会開催した。
出 演：職員、おはなしポップ
おはなし会 6 回
 - ②吹田市立山田駅前図書館でおはなし会を実施した。（2 回）
出 演：職員、おはなしポップ

- (4) 図書館等での街頭紙芝居の実施
街頭紙芝居の実演を行った。
 - ・事業名：むかしの紙芝居を楽しもう
 - ・開催日：平成 28 年 7 月 20 日（水）
 - ・場 所：大阪府立中央図書館
 - ・出 演：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館
 - *主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
 - *協 力：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

- (5) 「おはなしモノレール」の実施
子どもが絵本や物語の世界の楽しさを知り、より本に親しむきっかけづくりと親子のふれあいの機会の創出を目的として、平成 19 年度から実施している、貸し切りモノレールの中でのおはなし会と彩都での「人形劇」を楽しむ子ども向けイベント「おはなしモノレール」を実施した。
 - ・開催日：平成 28 年 9 月 17 日（土）
 - ・定 員：240 人（申込者：455 人 約 1.9 倍）
 - ・参加費：500 円
 - *協 賛：大阪高速鉄道株式会社、阪急不動産株式会社、
株式会社ベネッセコーポレーション
 - 協 力：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会
 - *子どもゆめ基金助成事業

3. ボランティアの参加と協働による事業の充実

- (1) ボランティア研修講座の開催
 - ・回 数：3 回（自主研修・打ち合わせ研修）

- ・対 象：平成 28 年度ボランティア登録者
- ・内 容：おはなしの語り方、絵本の選び方、おはなし会の打ち合わせ

(2) ボランティア登録者の事業参加

当財団のボランティア研修講座及び人形劇講座を修了したボランティア登録者に、上記 2 「本と子どもを結ぶ活動」の各種事業等への参加を求め、協働することによって事業の充実を図った。あわせて、財団事業の広報チラシ配付等についても協力をお願いした。

①おはなしポップ

- ・登録者数：19名
- ・活動回数：17回
- ・活動場所：おはなしモノレール（1回）、大阪府立中央図書館（6回）、吹田市立山田駅前図書館（2回）、児童養護施設（6回）、EXPO'70パビリオン（2回+展示受付14日）

②人形劇サークルぱれっと

- ・登録者数：4名
- ・活動回数：活動休止

II 子どもの本の文化に親しむ機会の提供

○創作童話・絵本の募集コンクール

「第 33 回 日産 童話と絵本のグランプリ」事業を実施した。

- ・応募数：童話 2,177 点（前年 2,414 点） 絵本 324 点（464 点）
計 2,501 点（2,878 点）
- ・予備審査：平成 28 年 11 月 11 日（金）～14 日（月）
- ・本審査：平成 28 年 12 月 3 日（土）、4 日（日）
- ・表彰式：平成 29 年 3 月 4 日（土）大阪府立中央図書館
- *協 賛：日産自動車株式会社

III 教材開発を通じた子どもの読書活動の推進

1. 「マンガのひみつ大冒険！ おすすめマンガがいっぱい！！」の開発・普及

子どもと子どもに読書をすすめる大人を対象に、マンガを通じた読書の楽しさや広がり、検索したり、遊んだり、体験しながら知ることのできる読書活動支援ソフトを開発し、普及を図る。

*子どもゆめ基金助成活動

2. 「ほんナビきっず」の更新・普及

子どもがインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムを株式会社富士通システムズ・アプリケーション&サポートとともに開発したが、今年度も図書データの追加更新と普及に努めた。
新刊あらすじ・キーワード データ投入件数：1792 冊

3. 「ドキドキ絵本づくり for Kids」の更新・普及

平成 25 年度にウェブサイト上で、絵本について学ぶことができ、実際に作って

みることができるコンテンツを「ドキドキ絵本づくり for Kids」として開発したが、今年度はちらしの配布、ワークショップ等を通して普及を行うと同時に、子どもの作品のアップロードを行った。

4. 「本の海大冒険」の更新・普及

ウェブサイト上で、子どもがクイズをしながらお気に入りの本を探すことのできる読書活動支援ソフト「本の海大冒険」に図書データの追加更新と普及に努めた。

協力：株式会社ジャスティス

IV 子どもの本を通じた国際交流事業

海外の作家を招いた講演会の開催、海外への日本の児童文学の情報提供や子どもの本に関する資料の交換を行うことにより、国際的な視野での読書活動推進を行う。

1. 国際講演会（再掲）

国際フォーラム「いま、アメリカの子どもの本を考える」の実施

- ・開催日：平成 28 年 5 月 22 日（日）
- ・場 所：大阪府立中央図書館

2. リンドグレーン記念文学賞（ALMA）受賞候補者の推薦

児童文学に関する国際的な賞であるALMAの受賞候補者を推薦した。

この賞は、2002 年児童文学作家アストリッド・リンドグレーンを記念して、スウェーデン政府が設立した。世界中の子どもが文学への関心を深めること、「子どもの権利」を世界レベルで守っていくことを目的とし、毎年、作家や画家、ストーリーテラー、読書普及活動団体などに贈られる。世界各地に推薦団体がある。

3. 情報、資料交換

当財団の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」（英文レポート）を電子メール等で、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームページで当財団の事業などの情報を提供した。また、海外の関係機関と情報、資料の交換を行った。

資料と情報の交換対象機関

- ① フィンランド児童文学研究所
- ② ミュンヘン国際青少年図書館（ドイツ）
- ③ グリム博物館（ドイツ）
- ④ スウェーデン児童文学研究所
- ⑤ スイス児童および青少年メディア研究所
- ⑥ Seven Stories（英国・子どもの本センター）
- ⑦ 浙江師範大学 国際児童文学館（中国） 等

V 国際児童文学研究賞（国際グリム賞）事業

世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰することにより、国際的な児童文学研究の振興に寄与する。平成 28 年度は、第 16 回受賞者の選考を行い、アメリカ・イリノイ州立大学ロバータ・シーリング・トライツ教授が選ばれた。

- ・アンケート 送 送 平成 28 年 10 月 1 日 (土)
縮め切り 平成 28 年 11 月 30 日 (水)
- ・選考 第 1 次選考会議 平成 28 年 12 月 25 日 (日)
第 2 次選考会議 平成 29 年 3 月 24 日 (金)

*主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
一般財団法人 金蘭会
大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

VI 大阪府子ども読書活動推進施策への協力

大阪府が推進する「第 3 次子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内のすべての子どもたちが本を読む喜びを味わい、豊かな感性をもつことができるような環境づくりに努める。そのため、関連委員会に委員として参加し、会議に出席した (6 回)

大阪府社会教育委員会 (2 回)

大阪府社会教育委員連絡協議会 (2 回)

大阪読書活動推進ネットワークフォーラム企画運営委員会 (2 回)

VII 研究及び出版等の企画事業

1. 共同研究・調査の実施

当財団職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行う。研究成果については、学会や「研究紀要」で発表するほか、当財団のホームページに登載するなど広く普及し活用を図る。

(1) 「近代日本児童出版文化史の研究

—明治期における博文館出版文化の内容と特質—

博文館の児童出版文化についての調査研究を外部研究者とともに行った。

(研究分担者)

- ・研究会 (4 回 平成 28 年 6 月 25 日、9 月 19 日、12 月 23 日、
平成 29 年 3 月 12 日)

- ・『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第 30 号 (論文 3 本、報告 1 本)

*独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)

(研究代表者：遠藤 純、平成 26～28 年度)

(2) 「昭和期日本における幻灯(スライド)文化の復興と独自の発展に関する研究」

昭和期のスライド文化についての調査研究を外部研究者とともに行った。

(研究分担者)

*独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)

(研究代表者：鷺谷 花 (成城大学)、平成 27～29 年度)

2. 出版企画・展示企画

(1) 「第 32 回 日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品の出版

- ・童話大賞受賞作品『日曜日の小さな大ぼうけん』

- ・絵本大賞受賞作品『ちかしつのなかで』

B L 出版 (株) と提携 平成 28 年 12 月刊行

(2) 博物館、文学館等における展示企画

- ・開催日：平成 28 年 7 月 23 日（土）～8 月 7 日（日）
 - ・場 所：EXPO' 70 パビリオン（吹田市万博記念公園内）
 - ・テーマ：「世界のおいしい絵本展」
 - ・内 容：「食」をテーマに、世界各国の食べ物や飲み物、お菓子、食べる場面や料理する場面などを掲載した絵本（大阪府立中央図書館 国際児童文学館所蔵）を約 100 点展示したほか、クイズや飛び出すカードづくりなどの「いろいろあそび」コーナー、「わたし/ぼくの好きな食べ物」メッセージコーナーなどを設置。
おはなし会「世界のおいしいおはなし」（7 月 23 日）
ワークショップ「おいしさが飛び出す絵本をつくろう」（7 月 30 日）
 - ・参加者：1,818 人
 - ・展示リスト、ブックリストの配布
 - ・主 催：大阪国際児童文学振興財団、一般社団法人 関西環境開発センター
 - ・後 援：大阪府立中央図書館
- * 日本万国博覧会記念基金助成事業

3. 論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第 30 号の発行

| | | |
|----------------|-----|---------|
| 論文の公募を実施 | 3 本 | |
| 共同研究メンバーによる論文 | 3 本 | |
| 財団特別専門員による雑誌細目 | 1 本 | |
| 研究プロジェクト活動報告 | 1 本 | 計 8 本掲載 |

4. 報告集「国際フォーラム いま、アメリカの子どもの本を考える」の発行

5. 特別研究員制度の活用

財団が企画・実施する研究に対して、共同・協力して研究を行おうとする外部研究者を特別研究員とする。

今年度は 3 名。上記 1 の共同研究等への協力を得た。

VIII 児童文学等に関する図書、記録その他の資料の収集

児童書、および児童書に関する資料について幅広く寄贈を受けた。寄贈された資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に引き継いだ。

- ・日本及び外国の児童図書
- ・児童文学・児童文化に関する研究書
- ・整理業務及び閲覧に必要な参考資料
- ・上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物

IX 子どもの本の文化の振興・発展に関する事業等

企業や支援者・団体等と連携を図り、子どもの本の文化の振興・発展に関するさまざまな事業に取り組んだ。

1. 雑誌『少年少女譚海』のデジタル化

大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵の雑誌『少年少女譚海』の保存のためのデジタル化を行い(179冊)、国内所蔵の『少年少女譚海』の内容細目のデータ化を行い、データをメディア芸術データベースへ提供した(285冊 17,881件)。

*文化庁文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業

2. 情報発信事業

(1) ホームページの作成

ホームページを日常的に更新し、以下の活動を行った。

- ① 当財団の事業、研究成果などの紹介
- ② 「マンガのひみつ大冒険! おすすめマンガがいっぱい!!」の掲載
- ③ 「ほんナビきっず」の管理・運営
- ④ 「子どもの本 いま・むかし」「本の海大冒険」「日本の子どもの本100選」「ドキドキ絵本づくり for Kids」の管理・運営
- ⑤ 国内の児童文学・児童文化関連事業の情報収集・発信

(2) メールマガジンの発行

毎月1回(20日頃)発行。

登録会員数: 2,261人 (平成29年3月22日現在)

3. 広報活動

(1) 報道機関等への情報提供

報道機関等へ、事業等について積極的に情報提供を行うほか、大阪府のホームページなどの広報媒体への資料提供を行った。

(2) レポートの発行

財団の1年間の活動状況を報告するレポート「大阪国際児童文学振興財団 REPORT No.6」を発行した。年1回

4. 寄付金募集

財団事業を充実させるとともに、児童文学に関わる方々や企業・団体とともに事業展開を進めるため、財団を支援いただけるように寄付を呼びかけた。

平成28年度実績 152件 1,613,368円

[収益事業の部]

I 企業等が行うイベントや出版・展示に協力する事業

子どもの本の発行や、子どもと本を結ぶ事業を行なおうとする企業・団体等から業務委託を受ける。

○出版企画等

(1) 出版社等による図書出版にかかる企画・制作業務の受託

博文館創業 120 周年記念「少年少女譚海」の復刻のための調査、企画会議等を行った。

委 託 元：株式会社博文館新社

(2) 出版社等による図書データ作成・企画協力業務の受託

「進研ゼミ電子図書館まなびライブラリー」のための選書の支援を行った。

委 託 元：株式会社ベネッセコーポレーション

(3) 出版社等による企画協力業務の受託

「コープのえほんでスマイル」絵本選定、ガイドブック原稿作成

委 託 元：大阪いずみ市民生活協同組合

II 出版物の販売及び著作権管理にかかる事業

1. 当財団発行の出版物の販売

事業報告集や「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」等を販売した。

| | |
|-----------|-------|
| 国際交流事業報告集 | 107 冊 |
| フォーラム報告集 | 7 冊 |
| 研究紀要 | 42 冊 |

2. 著作権管理に関する事業

「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品等の著作権管理を行った。

III 児童文学等に関する寄贈図書資料受入事業

大阪府立中央図書館から寄贈資料の受入れに関する業務を受託し、出版社等からの寄贈資料にかかる受入れ業務を行った。受け入れた資料については図書館に引き渡し、図書館内部の手続きを経た後、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に受け入れられた。

引渡件数：図書 2,892 冊 雑誌 3,056 冊 その他資料 985 点 計 6,933 点

平成28年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。

平成29年6月

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団